

## 第9節 外国語

### 1 改訂のポイント

#### (1) 改訂の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題等を踏まえて、外国語科が改訂された。

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される。
- 学校種間の接続が十分とは言えず、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができない状況がある。
- 小学校外国語活動の成果として、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている。また、教師の英語使用や英語による言語活動の割合が改善されている。
- 「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動や複数の領域を統合した言語活動十分ではなく、目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することに課題がある。

#### (2) 改訂の要点

##### ① 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくかという物事を捉える視点や考え方。外国語でコミュニケーションを図る「根本」となるもの。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

##### ② 外国語科の目標

外国語教育において育成を目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定している。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考え方などを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

#### 【知識及び技能】

外国語の音声や文字、語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

#### 【思考力・判断力・表現力等】

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる力を養う。

#### 【学びに向かう力・人間性等】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### ③ 英語の目標及び内容

#### ア 目標

「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の五つの領域について目標を設定している。小学校での学びを踏まえて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

| 聞くこと                                                                                                                                                                                                          | 読むこと                                                                                                                                                                                                          | 話すこと〔やり取り〕                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p>                                                | <p>ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。</p>                                      | <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。</p> |
| 話すこと〔発表〕                                                                                                                                                                                                      | 書くこと                                                                                                                                                                                                          | <p>*複数の領域を効果的に関連付ける統合的な言語活動を進めていく。</p>                                                                                                                                                                                   |
| <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。</p> | <p>ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p> <p>ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。</p> | <p>*学習到達目標は、五つの領域別の目標を踏まえながら、より具体的な言語材料と言語活動を統合して設定する。</p> <p>*各領域別の目標を各学年に応じて段階的に設定し、複数の単元で異なる言語材料を活用した異なる言語活動を行うことにより、五つの領域別の目標をより良く達成していく。</p>                                                                        |

## イ 内容

### 知識及び技能

#### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に外国語を用いた言語活動を通して、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて、これらの知識を理解するとともに、その知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」による**実際のコミュニケーション**において活用できる技能を身に付けるようにする。

### 思考力、判断力、表現力等

#### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で話したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、**コミュニケーション**を行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを構成し、これらを論理的に表現することを通して、**日常的な話題や社会的な話題**について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えるとともに、その情報や表現を選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなど表現できるようにする。

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力・判断力・表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」に示す事項を活用して「聞くこと」「読むこと」、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域ごと具体的な言語活動を通して指導する。また言語の働きに関する事項を適切に取り上げて指導する。

## 2 指導計画作成上の留意点

### (1) 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次のような改善が図られた。小学校や高等学校における指導との接続に留意した上で指導計画を作成することが大切である。

- ・小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするために語彙や表現などを異なる場面の中で繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高める。
- ・言語材料については、発達の段階に応じて、**生徒が受容するものと発信するものがある**ことに留意して指導する。
- ・生徒が英語に触れる機会を充実し、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため**授業は英語で行う**ことを基本とする。
- ・教材の中で**五つの領域別の目標と言語材料や言語活動との関係を単元ごとに示す**。

### (2) 障がいのある児童などへの指導

#### ○ 外国語科における特色

英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限られないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱くことがある。

#### ○ 外国語科における配慮

語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりするなどの配慮が必要である。

### 3 Q&A

**Q 1 小学校中学年で外国語活動が、外国語科としての外国語が始まることで、中学校の外国語の授業を進める中で留意することは、どのようなことですか。**

小学校の外国語科で示された言語活動のうち、小学校で学習した内容の定着の状況などの生徒の実態を踏まえながら、中学校の初年次の導入の段階から必要な言語活動を通じた学習を繰り返し行い、小学校からの学びを中学校の学習へと接続させることが大切です。

実際に小学校の授業観察を行ったり、学習指導要領を用いたりして、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の目標や内容、言語材料や言語資料の場面等について理解を深めたりすることが必要です。

**Q 2 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能が、今回の改訂により「話すこと」が、「やり取り」と「発表」に分けられ、五つの領域となったのはなぜですか。**

小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、外国語教育に係る国際的な基準CEFR (Common European Framework for Language, teaching, assessment 外国語学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) を参考にしています。

また、これまでの「話すこと」については、原稿を準備した上でスピーチを行うような言語活動が中心となっていて、「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分に行われていないという実態があったことから、そのねらいを明らかにするため2つの領域が設定されています。

**Q 3 中学校で指導する語「1600～1800語」については、これまでの「1200語程度」と比べると増加幅が大きいです。これだけの語を扱うこととなった経緯を教えてください。**

これまでの指導の実績や諸外国の外国語教育の状況を参考としながら、五つの領域別の目標を達成するために必要となる実際のコミュニケーションにおいて必要と考えられる語数です。また、平成28年度版の検定教科書においては、どれも1200語程度を大きく上回っている状況があります。

これだけ多くの語数を指導するためには、小学校高学年の外国語科で扱う600～700語程度と関連付けたり、意味を理解できるように指導すべき「受容語彙」と、表現できるように指導すべき「発信語彙」の違いを意識して指導することが大切です。

**Q 4 新たな言語材料として「感嘆文のうち基本的なもの」「現在完了進行形」「仮定法のうち基本的なもの」が加わったのは、どのような根拠からですか。**

感嘆文は既に中学校で一般的な言語材料として扱われている実態があります。また、現在完了進行形や仮定法は、現在完了形やifを用いた条件節で代用していることから、より適切な表現を用いたコミュニケーション活動を行うためには必要な言語材料と考えられます。

**Q 5 「授業は英語で行うことを基本とする。」とありますが、英語で授業を行うことのねらいはどのようなものですか。**

生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保することと、授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とするためです。教師が英語によるコミュニケーションのよきモデルとなることや生徒の英語使用を促し、教師と生徒のやり取り豊富になることが期待できます。従って、教科指導のための言語を日本語から英語に変えることで済むことではありません。